

活動名	のと復興支援インターン<令和7年春>
-----	--------------------

貢献・連携類型	5. 学生の社会貢献活動への参加奨励
---------	--------------------

報告者	応用情報工学科	学科	職位	准教授	氏名	五味 悠一郎
-----	---------	----	----	-----	----	--------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

令和6年度に実施した【能登の被災者支援を兼ねた災害学習研究「能登半島地震を学ぼう！」】企画が、学生にも地元の方にも好評だったことから、災害学習と能登復興支援を兼ねたインターンを応用情報工学科主催で実施いたしました。趣旨にご賛同いただいた、石川県と一般社団法人能登乃國百年之計からも後援をいただきました。

他学部他学科も参加できる企画としておりましたが、学内での周知が難しく、結果として応用情報工学科の学生7名が参加してくれました。

活動内容は、リポート珠洲の復興支援ツアー参加、奥能登ブリッジでのインタビュー、みんなのスーパー開業やこいのぼりフェス準備のお手伝い、テント設営撤収や火おこし実習、木ノ浦ビレッジでのインタビュー、北山地区や周辺の被災地視察とお手伝い、珠洲ひのきしんセンターや能登官民連携復興センターでのインタビュー、ケロンのおきな村ツアー、もとやベースでのインタビュー、宇出津港でセリ見学、エステフーズヤチ/川原農産/クエスト輪島/能登ネストへのインタビューとなり、所々で被災者や支援者との交流もでき、大変有意義な活動となりました。活動の一部をアレンジいただいた焼塩エイミー様に感謝申し上げます。

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

本活動は、学生にとって実践的な学びとなっただけでなく、被災者との関係も生まれ、学生の研究や継続支援にも繋がりました。

被災地では学生のお手伝いに対するニーズが多数あることもわかりましたので、石川県のサテライトキャンパス構想や石川県と日本大学の包括連携協定を背景として、能登の復興に目処がつく（支援がなくても日常生活や経済活動が持続可能な状態になる）までは、学生が活躍できる場を広げつつ、様々な方策で支援を継続していきます。

【日本大学関連企画 | 能登ステイ】
<https://notostay.com/nu/>

対象・相手先	石川県
--------	-----

協定書・依頼の有無（具体的に記入）	石川県との包括連携協定
-------------------	-------------

実施日時	令和7年4月29日～5月2日
------	----------------

場所	石川県
----	-----



本学からの参加者

引率教員：応用情報工学科 五味悠一郎
 参加学生：応用情報工学科 7名

